

秘

中國代表演説

世界史上偉大ナル意義ヲ有スル大東亞會議カ本日盟邦日本ノ首都ニ於テ舉行セラルルニトナリマシテ只今東條總連大臣閣下ノ演説ヲ拜聽シ大イニ感奮致シ次第テアリマス。米英ノ東亞侵略ハ百年以前ニ既ニ開始セシメタノテアリマシテ今ヤ斯ル極メテ重大ナル時期ニ於キマシテ日本ノ軍事力及政治經濟文化各方面ノ力ニ頼リテコソ始メテ能ク米英ノ侵略野心ヲ抑制シ東亞ヲ保全シ米英ヲシテ御豫セシメサルコトカ出來ルノテアリマス。最近更ニ大東亞戰爭勃發シ米英ノ東亞ニ於ケル侵略勢力ハ破碎セラレ東太平洋及南洋一帯ニ於ケル米英ノ陸海軍根據地ハ漸次日本陸海軍ノ擊破、占領スル所トナツタノテアリマス。日本ハ更ニ一步ヲ進メ東方道義精神ニ基キ東亞諸國家諸民族ノ共存共榮ヲ圖リ其ノ獨立自主ヲ援助シ其ノ愛國的希望ヲ達成セシメ之ヲシテ各々其ノ部署ニ就カシメ各々其ノ最大ノ努力ヲ盡サシメ大東亞戰爭完遂竝ニ大東亞建設ノ完成ノ責任ヲ分擔セシ

ル事トナツタノテアリマス。私ハ斯ル日本ノ崇高ニシテ偉大ナル抱負及其ノ光輝アル實績ニ對シ茲ニ謹ンテ最大ノ敬意ヲ表スルモノテアリマス。

同時ニ夙ニ友好關係ニアル滿、蒙兩國竝ニ新興「ビルマ」、「フィリピン」兩國及自由印度假政府カ各々鞏固ナル決心ト握マサル努力トニ依リ大東亞戰爭及大東亞建設ノ責任ヲ分擔セラレ居ラルコトニ對シ謹ンテ最大ノ敬意ヲ表スルモノテアリマス。

中華民國カ東亞ノ一翼トシテ今回私カ此ノ機會ニ於キマシテ大東亞戰爭完遂及大東亞建設ノ方針ニ關スル國民政府ノ決心ト努力ニ就キマシテ申シ述フル事ヲ得マスルハ洵ニ欣快ノ至リト存スル次第ナリマス。

中華民國ノ國父孫先生一生ノ抱負ハ即チ中國及東亞ヲシテ米英侵略勢力ノ桎梏ヲ破碎シ其ノ獨立自主ヲ完成セシムルニ在ツタノテアリマス、斯ル抱負ニ基キ逝去ノ日ニ至ル迄滿四十年ノ間畢生奮闘ヲ續

ケラレタノテアリマス其ノ逝去ノ三ヶ月前會テ日本ノ神戸ニ於キマ
シテ二回ニ亘リ演説ヲセラレマシタカ第一回ハ民國十三年十一月二
十八日テアリマシテ其ノ説ク所ハ即チ大亞細亞主義テアリマス。其
ノ中ニ於テ「我々亞細亞ハ世界最古ノ文化ノ發祥地テアルニ拘ラス
最近百年以來米英ノ侵略ヲ蒙リ漸次衰微スルニ至リ殆ト一トシテ完
全ナル獨立國家ノ存在ヲ見サルニ至ツタノテアリマスカ其ノ衰微カ
極點ニ達シマシタ時突如其ノ轉換期カ到來シタノテアリマス。此レ
即チ日本ノ維新テアリマス。此ノ日本ノ維新コソ日本カ亞細亞ニ於
テ先進國タルノ原因トナツタノテアリ同時ニ之カ亞細亞復興ノ出發
點トナツタノテアリマス。亞細亞各國ハ當然先進國日本ト共ニ同心
協力東方ノ王道的文化ニ基キ西方ノ霸道的文化ニ打ち勝ち米英ノ侵
略勢力ヲ完全ニ驅逐シ亞細亞各國ノ團結ニ依リ亞細亞各國ノ獨立自
主ヲ完成セシメネハナラナイノテアリマス。斯クノ如クニシテ始メ
テ能ク亞細亞全体ヲ衰微ヨリ復興ニ導クコトカ出來ルノテアルト

謂ハレタノテアリマス。第二回目ハ同年〇月〇日ノ演説テアリマシ
テ、其レニハ「日本ハ當然中國ヲ援助シ不平等條約ヲ廢棄スヘキテ
アルト述ヘラレ又其ノ中ニ「日支兩國ハ兄弟ト同様テアリ日本ハ
嘗テ不平等條約ノ束縛ヲ受ケタル爲メ發奮興起シ始メテ其ノ束縛ヲ
打破シ東方ノ先進國竝ニ世界ノ強國トナツタ。中國ハ現在同様ニ不
平等條約廢棄ヲ獲得ヤントシツツアルモノテアリ日本ノ十分ナル發
助ヲ切望スルモノテアル。中國ノ解放ハ即チ東亞ノ解放テアル。」
ト説明セラレタノテアリマス。以上二回ニ亘ル演説ハ國父孫先生ノ
一生ヲ通シ最後のナ演説トナツタノテアリマシテ其ノ後國父孫先生
ハ間モ無ク病魔ニ犯サレ翌年三月十二日北京ニ於テ逝去セラレタノ
テアリマスカ逝去ノ時ニ當リ遺囑ヲ同志ニ遺サレ同志ハ宜ク此ノ遺
志ニ從ヒ繼續奮闘シ以テ其ノ貫徹ヲ期セヨト謂ハレタノテアリマス。
最モ不幸トスルトコロハ國父孫先生逝去後其ノ遺志未ダ實現スルコ
ト能ハス日支ノ關係ハ好轉ヲ見サリシノミナラス却テ日増ニ惡化シ

遂ニ民國二十六年七月事變ノ發生ヲ見ルニ至ツタノテアリマス。正ニ國父孫先生逝去後十二年目ニ當ツテ居リマス。此ノ時日支ノ關係カ決裂シタル爲メ米英ハ好機到レリトナシ挑撥離間ヲ圖リ日支事變ノ擴大延長ヲ冀ツタノテアリマス。我等同志ハ國父ノ遺志未タ實現セサルヲ見、日支關係ノ日ニ惡化スルヲ見テ痛心其ノ極ニ達シ絶望ノ深淵ニ陥入ラントシタノテアリマシタカ幸ヒ日本政府ハ事變ヲ最短期間ニ打切ルヘキ方針ヲ宣布セラレ其ノ中ニ於テ日本ノ目的トスルトコロハ中國ノ滅亡ニ非スシテ中國ノ興隆ヲ冀ヒ日本ハ中國カ東亞建設ノ責任ヲ分擔スヘキコトヲ期待シ又日本カ中國ヲ援助スヘキコトヲ決心シ其ノ獨立自主ノ願望ヲ達成セシムルコトニ在ルコトヲ闡明セラレマシタ。我々同志ハ日本カ斯ル眞意ヲ宣布セラレタルコトヲ聞キ日支關係ノ好轉竝ニ國父ノ遺志ヲ完成セシムル希望ノ存スルコトヲ承知シタノテアリマシテ、之ニ依リ先ツ重慶政權ニ對シ抗戰放棄、和平恢復ヲ勸告致シマシタカ總キ容レサリシ爲已ムヲ得ス

重慶ヲ包圍シ、和平運動ノ爲ニ奔走スルコトニ決シタノテアリマス。國父國民政府ハ南京ニ遷都シ正々堂々日支提携、東亞復興ニ最大ノ努力ヲ致スコトニナツタノテアリマス。上述ノ通り米英ハ日支事變ニ對シ常ニ挑撥離間ニ努メ其ノ擴大延長ヲ冀ツタノテアリマスカ國民政府遷都以後ハ斯ル手段ハ更ニ惡化セラレ米英ハ重慶ニ對シ挑撥離間ヲ強化、和平ノ阻止等ニ勵シ凡有ユル手段ヲ講シタノテアリマス。其ノ後大東亞戰爭發生スルニ至リ米英ハ其ノ東亞ニ於ケル勢力カ逐漸消失セルニ鑑ミ益々重慶ヲ利用シテ日本ヲ牽制スルノ方途ヲ強化セラルコトハ既ニ世人ノ俱ニ知ル事實テアリマスカ我々ハ敢テ米英ノ斯ル計畫カ間モ無ク失敗ニ歸スヘキコトヲ斷定スル次第テアリマス。何故ナラハ重慶側ノ將士及民衆ハ悉ク國父孫先生ノ遺教ニ歸依シテ居ルノテアリマシテ本年一月九日以來日本ハ中國ニ對シ早クモ租界ヲ還付シ治外法權ヲ撤廢シ殊ニ最近ニ至リ日華同盟條約ヲ以テ日華基本條約ニ替へ同時ニ各種附屬文書ヲ一切廢棄サレタノテアリマス。

國父孫先生カ提唱セラレマシタ大亞細亞主義ニハ既ニ光明ノ發現シ
 タノデアリマス。國父孫先生カ日本ニ對シ切望セシマシタ所ノ事
 ラカク不平等條約ヲ廢棄スルトイフコトモ既ニ實現セラレタノデア
 リマス。其カ如何ニ誘惑シ如何ニ阻止スルト雖モ重慶備ノ覺
 醒ヲ阻止スルコトハ出來ナクナツタノデアリマシテ、僅今一時的ニ
 之ヲ束縛シ待タトスルモ重慶ハ他日必スヤ本兵ニ收容スルコトハ
 既ニ反逆スルコトナリ爾時ニ國父孫先生ニ反逆スルコトナルヘ
 キヲ自覺シ、將士及民衆モ亦悉ク瀾然覺醒スル日ノ到來スルコトハ
 必定ナルヘキコトヲ茲ニ斷言シ得ル次第デアリマス。

國民政府ハ斯ル最モ重要ナル時期ニ於テ只管既定ノ方針ニ基キ更ニ
 努力ヲ重ネ一面重慶將士及民衆ノ覺醒歸來ヲ促進シ統一ヲ完成スル
 ト共ニ一面政治力ノ及ビ得ル地方ニ於テ一個ノ模範地區ヲ樹立セン
 トスルモノデアリマシテ、其ノ工作ハ次ノ三點ニ重點ヲ置クモノテ
 アリマス。即チ第一ニハ思想ノ肅正、第二ニハ治安ノ保障、第三ニ

ハ生産ノ増加之デアリマス所謂思想ノ肅正トハ其ノ個人主義的
 主義的思想ヲ徹底的ニ一掃シ之ニ替フルニ東方運動精神ヲ以テシ、
 東亞人ノ自覺心ヲ以テ東亞人ノ本然ノ姿ヲ恢復シ一心一德東亞人ノ
 共存共榮ノ爲ニ奮闘スルニ在ルノデアリマス。次キニ所謂治安ノ保
 障トハ即チ中國ノ處スル所ハ大東亞戰爭ノ後方ニ於テ須ク治安ヲ確
 保シ始メテ盟邦前線將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ、之ニ依リ更ニ
 一步ヲ進メテ軍隊ヲ前線ニ輸送シ些カナリトモ盟邦將士ノ勞苦ヲ分
 タントスルニ在ルノデアリマス。所謂生産ノ増加トハ一切ノ經濟計
 畫及財政計畫ニ重點ヲ持タシメ總力決戦ノ力量ヲ増加セシムルニ在
 ルノデアリマス。唯生産増加ト謂ヒマシテモ事實此處ニハ消費節約
 廢物利用ノ意味ヲモ其ノ中ニ包含シテ居ルノデアリマス。以上三項
 ハ國民政府カ大東亞戰爭ニ協力セントスル工作ノ重點デアリマシテ
 同時ニ國民政府カ體得致シマシタル戰爭即チ建設ノ意味ハ戰爭中ニ
 在ツテ同甘共苦、同生共死ノ決心ニ基キ東亞同胞ト東亞同志ヲ結成

シ外ハ則チ共同ノ敵米英ヲ制禦シ其ノ侵略勢力ヲ破碎シ其ノ侵略企
 圖ヲ消滅セシメ、内ハ即チ刻苦勉勵勇往邁進ノ精神ヲ以テ東亞同胞
 ト共ニ同心協力東亞ノ建設ヲ擔當セントスルニ在ルノテアリマス。
 大東亞戰爭ニ就テ申スナラハ我々ノ冀求スル所ハ勝利テアリマシテ
 大東亞建設ニ就テ申セハ我々ノ冀求スル所ハ共榮テアリマス。具体
 的ニ申シマスレハ東亞各國ハ各々其ノ國ヲ自愛シ互ニ其ノ隣國ヲ愛
 シ共ニ東亞ヲ愛スヘキテアリマシテ中國ニ就テ言ヘハ我々ノ一モツ
 ト一トスルトコロハ中華ノ復興、東亞ノ保衛ニ在リマシテ、之ハ
 中國カ獨立自主ヲ獲得シタル時ニ始メテ東亞保衛ノ責任ヲ分擔スル
 能力ヲ生シ、同時ニ東亞ノ保衛ヲ獲得シ始メテ中國ノ自主獨立カ保
 障サルルノテアリマス。夫レ故我々ハ努力シ以テ自己ノ國家ヲ自主
 獨立ノ國家タラシメ又自國ヲ東亞ノ強力ナル分子トナスコトヲ冀ス
 ルノテアリマシテ、東亞各國ハ各々其ノ本然ノ特質ヲ有スルカ故ニ
 其ノ獨立自主ヲ確保シ又互ニ其ノ獨立自主ヲ尊重スルコトヲ要スル

ノテアリマス。東亞各國家ハ又其ノ共同ノ目的ヲ有スルカ故ニ共同
 協力共同ノ目的ニ向ツテ共存共榮ヲ求ムルコトヲ要スル次第テアリ
 マス。先進國タル日本ハ既ニ其ノ光輝アル獨立自主ヲ世界ニ發揚サ
 レマシタカ最近ハ尙東亞各國ヲシテ悉ク其ノ獨立自主ヲ獲得セシメ
 援助ヲ惜マス一致團結セシメ共同目的ニ向ツテ俱ニ努力ヲ致スルニ
 ラレンコトコソ望マシキ次第テアリマス。私ハ政治上ノ獨立自主ヲ
 獲得セル後若シ外交上ニ於ケル方針カ一致シ軍事上ニ於ケル對敵關
 係カ一致スルニ於テハ共同ノ目的ニ到達シ得ルコトハ必然テアルト
 考フル次第テアリマス。文化面ニ於テハ先進國タル日本カ確カニ自
 己ノ文化ヲ基礎トシ、東方文化ヲ昂揚シ、世界文化ヲ吸收スルトイ
 フ三大要點ヲ成就致サレマシタコトニ對シ我々ハ深ク敬服致シ居ル
 次第テアリマス。私ハ斯ク新興國家カ奮勵努力共ニ前進スルコトヲ
 深ク信スル次第テアリマス。我カ中國ハ殊ニ其ノ全力ヲ盡シ文化ノ
 復興ヲ圖ルヘキタト考フル次第テアリマシテ文化ノ融合創造ハ各民

族ヲ聯繫ニシテ團結セシムル要緊テアルト考ヘマス。例ヲ舉ゲテ申シ
 マスト、印度ト中國ノ兩民族間ニ於テハ嘗テ佛教ノ導入ニ依リ其ノ
 思想ノ交流ヲ圖リ東方文化史上ニ一異彩ヲ放タシメタノデアリマス。
 又經濟上ニ於テハ東亞各國家ハ互惠ノ基ニ長短相補ヒ有無相
 通シ種々双方ヲ利便セシムル方法ヲ考ヘルヘキデアリマス。之ニ就
 キ例ヲ申シ上ケレハ、中國ノ棉花ハ幾多隣邦ノ需要スル所デアリ、
 南洋各地ノ「ゴソリン」、「ゴム」、「錫」等モ相當隣邦ニ供給シ得ル
 モノデアリマシテ、我々カ唯互助ト云フ見地ニ立ツナラハ必ス一切
 解決シ得ルノデアリマス。米英カ過去ニ於テ措リ來リマシタ擽取政
 策、壟斷政策ヲ根底ヨリ消滅シ新ニ一ツノ人道ニ合致シタ新天地ヲ
 創造スヘキデアリマス。以上述ヘマシタ所ヲ實現スルコトヲ得ルナ
 ラハ東亞各國家民族ノ福利ハ無限ニ増進セラレ番ニ東亞共榮ノ確實
 ナル保障ヲ獲得シ得ルニ止マラス、世界平和亦茲ニ於テ其ノ基礎ヲ
 奠定スルニ至ルコト疑ヒナイノデアリマス。之等ノ光明ハ實ハ我カ

前途ニ就テ居リ只信ニ我カ東亞各國家民族ヲ共ニ手ヲ携ヘテ其
 處ニ到達セシムルコトヲ待テ居ルノデアリマス。
 其ノ第一ニ附ケルハ東亞コトハ中國人ニシテ蒙、「ビルマ」、「フィリ
 ピン」各國及日本占領下ニ在ル舊英領及和蘭ノ各殖民地域内ニ在ル
 者總數七八百萬ヲ下ラス、此等在留民ハ夫々所在國政府ノ優遇ヲ
 受ケ所在國人民ト肩ヲ並ヘテ活動シ、而モ交通開拓資源開發ニ對シ
 勸カラサル心血ト熱汗ヲ注キ其ノ心血及熱汗ノ一滴一滴カ所在國人民
 民トノ結合ニ注カレテ居リ東亞人ノ自覺ニ大ナル推進力トナツテ居
 ルノデアリマシテ、中國人民ハ素ヨリ缺點モ有リマスカ同時ニ亦其
 ノ長所モアリ和平、信實、勤勞、質朴ニシテ所在國人民ト其ノ苦樂
 ヲ俱ニシ休戚ヲ同ウシテ結果互ニ其ノ長所ヲ取上ケ缺點ヲ補ツテ
 既ニ分譲スヘカラサル友好協力關係ヲ形成シテ居ルノデアリマス。
 私ハ此ノ關係カ今次ノ大東亞戰爭ヲ經テ更ニ鍛練サレ團結スルニ至
 ルヘキコトヲ深ク信スルト共ニ又此ノ關係カ大東亞共榮ニ對シ貢獻



スル所アルヲ信スル次第テアリマス。
 民國二十九年十一月三十日ヲ回顧スルニ日滿華三國共同宣言ハ既ニ
 東亞大陸ニ軸心ヲ樹立シ今日大東亞會議ニ於テハ更ニ泰、「ビルマ
 「フィリピン」三國ノ參加ヲ得印展亦陪席セラレマシテ共榮國ノ範
 圍ハ更ニ擴大セラレタノテアリマス。以上私ノ所見開陳シマシタ
 カ茲ニ更ニ三誠ヲ以テ會議參加諸國ノ國運興隆ト人民ノ福祉ヲ祝福
 スル次第テアリマス。

泰國代表所見譯文

泰國政府ハ日本國政府ヨリ藏キマシタ今向ノ大東亞會議ニ對スル參
 加招待狀ヲ欣然受諾致シマシタ。ト申シマスノハ泰國政府ハ本會議
 カ大東亞戰爭ヲ所期ノ如ク完遂セシムルト共ニ大東亞共榮國ヲ確立
 シ其ノ將來ノ繁榮ヲ齎ス可キモノト確信スルカラテアリマス。尙泰
 國總連「ピブン・ソングラム」元帥閣下ハ電報カ東京ヘノ長途ノ旅
 行ヲ許サスシテ目ラ本會議ニ列席出來ナカツタ事ヲ頗ル遺憾トシテ
 居リ、從ツテ私カ代表トシテ本會議ニ參列シタ次第テアリマス。
 大東亞戰爭遂行宜ニ大東亞共榮國ノ樹立ニ對スル泰國政府ノ所見ヲ
 申シマスレハ、從來ノ戰爭遂行ノ方針、我ニ日泰關係ノ基本方針ニ
 準據シタ方針ヲ遂行方針ハ極メテ妥當ナルモノト信シテ居リマス。實
 面ノ問題トシテ現存致シマスル友好關係、萬方宜ニ十分ナル瞭解ヲ
 一層増進致シマシテ的心的ノ力ヲ結集一體化シ、以テ戰爭ノ完遂
 ト大東亞共榮國ノ樹立ヲ期スヘキモノト考ヘル次第テアリマス。私